

兵庫県家島諸島で発見されたミドリイガイ

久保田 信*・榎谷英樹**

南方系の外来種であるミドリイガイ *Perna viridis* は、1967年11月に兵庫県での初記録以来、今や日本全国に分布を拡大している二枚貝である(日本付着生物学会, 2001; 日本プランクトン学会・日本ベントス学会, 2009)。ミドリイガイは、和歌山県白浜町でも昨今の地球温暖化に伴い、今や最もよく知られた海洋性の外来種であるムラサキイガイ *Mytilus galloprovincialis* (日本付着生物学会, 2001) とすみ場所を巡る競合で交代する勢いである(久保田, 2004, 2007, 2009)。このような状況の中、今回、兵庫県家島諸島(図1)で初めてミドリイガイをムラサキイガイ群集の中から発見したので記録する。

2009年11月21日に、兵庫県家島諸島西島に位置する兵庫県立いえしま自然体験センターの前浜(図2)の筏に装着した小型のプラスチック製の浮き玉をびっしり覆っていた数百個体からなるムラサキイガイ群集に混じって(図3)、ただ1個体の小型のミドリイガイ(前後軸長17 mm)を発見した(図4)。本個体が冬季に凍死せず成長し続けるかどうかの調査は行わず、エタノールで固定して標本とした。今後はこの海域での本種の動態を調査予定である。

【引用文献】

- 久保田 信 2004：緑色のイガイ類にまつわる幾つかの話題. かいなかま, 38(1): 7-10.
久保田 信 2007：和歌山県田辺湾およびその周辺海域におけるムラサキイガイ個体群の激減とミドリイガイの増加. 南紀生物, 49(1): 81-82.
久保田 信 2009：二枚貝の外套腔をすみかとする不思議なカイヤドリヒドラ類の最近の話題. かいなかま, 43(1): 1-8.
日本付着生物学会編 2001：黒装束の侵入者 外来付着性二枚貝の最新学. 125頁, 恒星社厚生閣, 東京.
日本プランクトン学会・日本ベントス学会編 2009：海の外来生物. 人間によって攪乱された地球の海. 298頁, 11口絵. 東海大学出版会, 神奈川県.

*) 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所、**) 兵庫県立いえしま自然体験センター



図1 家島諸島 西島

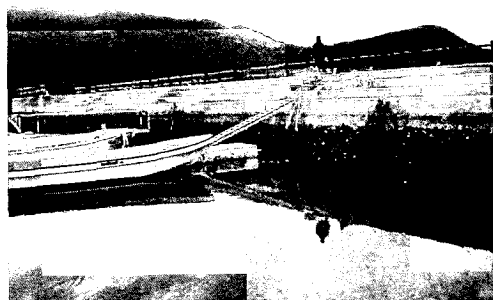


図2 西島 自然体験センターの前浜



図3 兵庫県立いえしま自然体験センターの前浜で発見されたミドリイガイの付着場所
(水深2 m)

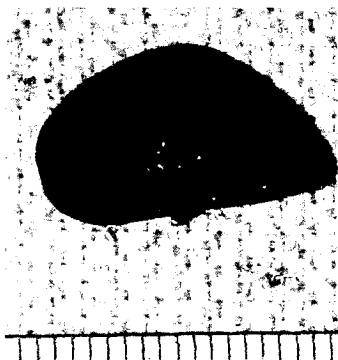


図4 兵庫県家島諸島西島で発見された生きたミドリガイ